

そうだ！夏休みだ！本を読もう！！

沼高「図書館通信」第 92 号・特別付録

◇ ◆ 特 集 ◆ ◇

【「新型コロナウイルス感染拡大」の“今”だからこそ読みたい本】

「新型コロナウイルス感染拡大」に、いろいろと考えさせられる昨今です。ウイルスのこと、学校生活のこと、人生について、などなど、人それぞれなのではないでしょうか！?

こんな“今”だからこそ、読んでみたい、読んでおきたい、本を集めてみました。修学旅行コーナー前の【夏休み特設コーナー】で紹介しています。気になる本が見つかったら、是非借りて読んでみてください。

◆ 『ペスト』

カミュ 著・新潮文庫

・ 疾病に挑む人間を描いた(昭和 44 年出版)この作品が、令和の今、再び話題に…封鎖された街の人々は?

◇ 『復活の日』

小松左京 著・角川文庫

・ 人類滅亡の日を目前に、残された人間が選択する道を描いた SF 長編。著者は、日本 SF 大賞受賞者。

◇ 『疾病と世界史』(上・下)

ウィリアム・H・マコーナル 著・中公文庫

・ 紀元前 500 年から紀元 1200 年まで、人類の歴史を大きく動かした感染症の歴史が理解出来る。

◆ 『タイタン』

野崎まど 著・講談社

・ 仕事の定義とは何か? タイタンと呼ばれる人工知能群がほぼ全ての労働を肩代わりしたらどうなる?…。

◆ 『52ヘルツのクジラたち』

町田そのこ 著・中央公論新社

・ 52 ヘルツのクジラとは高い周波数で鳴く世界で一頭だけの孤独なクジラ…。人間だとしたら、どんな魂の物語に?

◇ 『逆ソクラテス』

伊坂幸太郎 著・集英社

・ 逆境にも負けず、簡単ではない現実に立ち向かう…アンハッピーな展開を乗り越えた先は? 5 編の短編集。

◆『病魔という悪の物語』

金森修 著・ちくまプリマー新書

・1900年代初頭にアメリカで発生した腸チフスの感染を自覚せず広めたマリーという女性の数奇な人生のノンフィクション。

◇『ホット・ゾーン』

リチャード・プレストン 著・早川

・エボラ出血熱と医師たちの戦いを描いた作品。パンデミックを阻止すべく立ち上がった科学者たちの姿…。

◇『クスノキの番人』

東野圭吾 著・実業之日本社

・今、この時代にこそ、必要とされる物語!?“読み終えた人が明日に希望を持てるように”と書かれた本。

◆『ポケット詩集』ⅠⅡⅢ

宮沢賢治、高村光太郎 他・童話屋

・子どもも大人も、その時代、その時代のとびきり志の高い“詩”を読んでみよう!!…。

▲この他にも、今だから読んで欲しい本をいろいろと紹介しています▲

第66回 青少年読書感想文コンクール

※ 高等学校の部・課題図書



▲『廉太郎ノオト』

谷津矢車 著

中央公論新社



△『フラミンゴボーイ』

マイケル・モーパーゴ著

小学館



▲『キャパとゲルダ』

マーク・アロンソン他

あすなる書房

～読んで世界を広げる、書いて世界をつくる～

◎カウンターで紹介しています。コンクールに関係なく、気になったら、借りてみてください。コンクールについて詳しく知りたい人は司書まで!!